

第17回当事者研究全国交流集会に参加して

金沢当事者研究研究会 松田茂喜

oriteiku.kanazawa@gmail.com

【はじめに】

2020年10月3日にオンライン開催された「第17回 当事者研究全国交流集会」の参加報告をする。これまで、「当事者研究全国交流集会」は、当事者研究発祥の地である北海道浦河町と全国各地を隔年の間隔で開催されていた。今年は全国各地の開催であり、九州での開催であった。しかし、新型コロナウイルス感染症対策のため、集合開催を回避し、大会初のオンライン開催（ZOOM ウェビナー）となった。以降、時系列に追って報告する。

【当事者研究の歴史と取り組み】

当事者研究を提案した、北海道医療大学 教授で精神保健福祉士の向谷地生良氏により説明がなされた。2001年に始まったこと、これまで、弱い立場や声をあげづらい立場の人が「研究」というスタイルで自分を語ることで生きやすくなる試みであること、研究する本人が生きやすくなるとともに、変化がみられる支援専門職の立場について説明があった。

また、2015年に東京大学先端科学技術研究センターに当事者研究分野が設けられたことにもふれた。現在では、韓国でも当事者研究がなされていることや、日本での精神保健福祉の分野のみばかりでなく、家族・こども・司法・企業までその取り組みが発展していることを述べ、締めくくった。

【当事者研究口頭発表】

10件の発表がなされた。発表者1人につき、発表6分、質疑2分であった。当初の予定時間を超過し15分延長された。

発表の内容は、精神疾患の付き合い方の研究、日々の過ごし方に関する研究、人間関係に関する研究、生活に関する研究など多岐にわたっていた。

発表は、パワーポイントのほかに、動画やyoutube 閲覧等様々な方法を用いていた。

【分科会】

5つの分科会に分かれて行われた。ここではタイトルのみ示す。

- ① 「学校改造計画」（学校の当事者研究）
- ② 当事者研究のはじめ方・続け方（オンライン当事者研究）
- ③ 新・働き方改革（職場での当事者研究）
- ④ 自粛・心地よいソーシャルディスタンスを探求せよ！（家族の当事者研究）
- ⑤ ステイホームと言われても…（ホームレスの当事者研究）

分科会終了後、各分科会に対し総括がなされた。

【感想】

筆者は2014年末から金沢市にある岡部病院デイケア・ピアにて当事者研究プログラムに参加し、2020年3月より外部有志を募り「金沢当事者研究研究会」を結成した。

当事者研究の醍醐味は、これまで受け身であった姿勢や態度が研究を行うことで自分を語りだした結果、姿勢や態度が積極的になり、自ら考え、行動できることである。

これまで、交通費や滞在費が捻出できず、参加できなかった。発表に対し否定的な意見や批判よりも、研究に対する賞賛やねぎらいの言葉等が出されていたことが印象的であった。

一部メディアで取り上げられた東京の「べてぶくろ」でのトラブルを指摘し、対応を求める人もいたが、それよりも参加して非常によかったという声が多く、盛り上がりの中で終わった。